

平成30年度
事業報告書



社会福祉法人 邦知会

(目 次)

○社会福祉法人 邦知会	P. 1
○ユートピア広沢・リバーサイド広沢 (全体総括)	P. 3
特別養護老人ホーム ユートピア広沢 (全体)	P. 4
特別養護老人ホーム Aグループ	P. 5
特別養護老人ホーム Cグループ	P. 6
地域密着型特別養護老人ホーム Dグループ	P. 6
ケアハウス リバーサイド広沢グループ	P. 8
医務グループ	P. 9
栄養グループ	P. 9
ショートステイグループ	P. 10
デイサービスグループ	P. 11
ホームヘルプサービスグループ	P. 12
定期巡回・随時対応型訪問介護看護グループ	P. 12
居宅介護支援グループ	P. 13
桐生市地域包括支援センター	P. 13
○ケアハウス サンフラワー広沢	P. 15
○養護老人ホーム サンロイヤル広沢 (全体総括)	P. 16
養護 Aグループ	P. 17
養護 Bグループ	P. 17
介護支援グループ	P. 18
医務グループ	P. 18
栄養グループ	P. 19
○ハーモニー広沢・ハートフル広沢 (全体総括)	P. 20
特別養護老人ホーム ハーモニー広沢 (全体)	P. 21
特別養護老人ホーム Bグループ	P. 22
特別養護老人ホーム Cグループ	P. 24
特別養護老人ホーム Dグループ	P. 26
ケアハウス ハートフル広沢グループ	P. 28
医務グループ	P. 29
栄養グループ	P. 29
ショートステイグループ	P. 30
デイサービスグループ	P. 31
ホームヘルプサービスグループ	P. 32
居宅介護支援グループ	P. 32
○グレイス広沢	P. 34
生活支援グループ	P. 34
訪問看護グループ	P. 35

社会福祉法人 邦知会

平成30年度は、第7期の介護報酬改定が行われました。改定率は全体では、0.54%のプラス改定となりましたが、サービスの種別によっては給付適正化の名の下に基本報酬が引き下げられたサービスもあり、プラス改定の恩恵を受けるためには、各種加算取得体制の構築や、時代の傾向に合わせた人員体制及びサービスの適正化、業務効率化を推し進めることが急務となりました。

そのような中、邦知会では「心ひとつに、前へ」の年度全体スローガンのもと、これまで以上に部署間・職員間の連携を緊密にはかり、よりお客様に対する柔軟な対応をとることで、利用と収益の増加、及びお客様の満足度の向上に向け、法人の総合力を結集して取り組んでまいりました。

まず一つ目の重点目標である地域包括ケアシステムへの対応としては、サービスの枠を越え、つなぎ目のない包括的なサービスができるよう、施設間・サービス間・職員間の連携を強化し、ワンストップサービス化を推進しました。

また社会福祉法人としての社会貢献への取り組みの継続としては、県内の社会福祉法人が連携して実施する「群馬県ふくし総合相談支援事業」への参画や、渡良瀬川クリーン運動等への参加、介護職員初任者研修の実施による地域の介護人材の育成、地元第13区消防分団や県の災害派遣福祉チームへの職員派遣、ハーモニー広沢における認知症カフェの運営等といった地域貢献活動や事業を継続実施いたしました。

二つ目の重点目標である業務効率化と職場環境の改善については、業務の見直しによる作業標準化と、IT化による業務効率化を推進し、業務日誌の暦日管理への変更や、タイムカードのICレコーダー化による勤怠の適正な管理及び業務の軽減化等を行いました。

法人の各種委員会においては、人材育成委員会とホームページ委員会を新設し、人材育成委員会では前年度作成した職員育成プログラムを採用職員に対して実践し、検証を行いました。さらにホームページ委員会では各種SNS等を利用して邦知会の魅力を発信することで、人材確保にも繋がる広報強化への新たな取り組みを行いました。また認知症ケア委員会を再編し、身体拘束の適正化を図るための委員会としての役割を追加し、身体拘束ゼロの継続に取り組みしました。

職場環境の改善については、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）の実現に向けた取り組みを継続し、厚生労働省の「ユースエール認定企業」としての認定や、群馬県の「群馬県いきいきGカンパニー」としての認証を受けました。

また職員の心身の健康の増進と、働く環境をさらに改善していくために「ぐんま介護人材育成宣言」を行い、その取り組みに力を注ぎました。

三つ目の重点目標であるお客様の安心と安全のさらなる向上に向けた取り組みとしては、施設の防災（地震・水害・火事）対策の強化として、恒例となった法人合同の総合防災訓練を消防南分署及び地域の消防分団のご協力を得て実施するとともに、昨年につき法人合同の水害対策訓練を実施しました。さらに各種感染症対策の徹底や、身体拘束の適正化及び虐待の未然防止に関する職員研修の継続、さすまたの購入と不審者への警戒強化のための防犯研修の実施等を通して、お客様に安全で安心してご利用いただける施設づくりに取り組みました。

また専門性の向上への取り組みの継続として、職場成果発表会「邦知会グランプリ」を開催し、部署や委員会、職員による自発的な取り組みへの評価と支援を行うとともに、胃ろう・たん吸引関係研修の実施や資格取得を目的とした研修への受講支援を行いました。

四つ目の重点目標である安定した法人運営の維持に向けた取り組みとしては、平成28年度に開設したサービス付き高齢者向け住宅「グレイス広沢」が満床となり、運営が軌道に乗ってきたことに加え、各種加算を確実に取得するための有資格者等の適切な配置を行うとともに、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」及びデイサービスにおける「新介護予防プログラム」の周知と利用の促進を図り、成果を上げることができました。また資産運用については安全確実かつ効率的な運用を行いました。

以上の各種取り組みを通じて、平成30年度は全体スローガンのとおり法人の全ての職員が心をひとつにし、前へ進むという目標を達成することができたのではないかと考えます。

「平成」から「令和」という新しい時代を迎えますが、私たちはこれからも、法人理念に則り、真摯に自身の役割に向かい合い、事業を継続していくことで、地域の皆様にとって必要とされる存在としての地位を確立してまいります。

ユートピア広沢・リバーサイド広沢（全体総括）

『あなたの気持ちを大切にします』

『運営方針』

- ◆ 私たちは、法人理念に基づき、お客様一人ひとりの個性を尊重し、心豊かな生活が送れるよう、お客様を主体にした個別ケアを提供します。
- ◆ 私たちは、お客様の声を真摯に受けとめ、提供するサービスの内容を常に振り返り、満足していただけるサービスの提供に努めます。
- ◆ 私たちは、お客様一人ひとりに合わせた環境の整備を行うとともに、専門性に裏付けされた支援を実践することにより、お客様とご家族が安心していただけるサービスの提供に努めます。
- ◆ 私たちは、積極的に自己研鑽を行ない、柔軟な発想を持って日々変化する物事に迅速に対応できるよう努めます。
- ◆ 私たちは、開設20年を迎え培った「ユートピア広沢」のもつ様々な機能を活かし、『心ひとつに、前へ』のスローガンのもと、職員間、地域とのつながりをさらに強めて、地域包括ケアシステムの中核となれるよう努力してまいります。

『総括』

平成30年度は、時代の変化や様々な制度改正に柔軟に対応することが求められ、またユートピアとしても開設20年を迎えた節目の年でもありました。20年で培ってきた「ユートピア広沢」の様々な機能を生かし、今まで大切にしてきたことは大切にしながらも、職員ひとり一人が柔軟な発想をもって課題に取り組んだ一年でした。

施設サービス部においては、人生最後の時まで安心して心豊かな生活を送っていただけるよう、ケアプラン作成時のカンファレンスへのご家族参加を定着させ、意向を反映した支援を行うことが出来ました。また機能訓練、口腔衛生、栄養改善をはじめとする様々な支援の充実を図り、特に口腔衛生においては、歯科医師、歯科衛生士の助言を定期的を受けながら、職員のスキルアップとともに、ご入居者の状態の安定につながる成果を実感しております。

また、いままでの法人創立の精神を継承しつつ、時代の傾向に合わせた人員配置やサービスの適正化を推し進める取り組みとして、特養多床室のグループ化を行いました。今までの方法で行っていくこと、変化させていくこと、時には迷い、立ち止まり皆で振り返りながら、「その人が望むケア＝個別ケア」であるとの原点に立ち、取り組んでおります。

在宅サービスにおいては、それぞれのサービスで提供するプログラムの内容を増やし、充実させ、ご利用者の満足度を高めることができました。あわせてサービス間の連携を強めることで、ご利用者に複数のサービスを選択していただき、在宅サービス全体の利用増につなげることができました。今後も、サービス間の協力や連携を深め、在宅生活をトータルで支援していく体制を構築していきたいと考えます。

地域包括支援センターにおいても、「地域共生社会」の実現に向け、地域でのネットワークづくりに努力してまいりました。

8月に実施した「ユートピア広沢20周年記念『元気フェス』」には、多くの方々にご参加いただきました。あらためて多くの皆様に支えていただいていることに感謝し、今後も「ユートピア広沢」が地域の方々にとって、より身近な安心できる施設となれるよう努めてまいります。

特別養護老人ホーム ユートピア広沢（全体）

『基本方針』

- ◆ 笑顔が集う温かい暮らしの場を目指します。
- ◆ ご入居者、ご家族の思いに寄り添い、専門性に裏付けされた安心安全な支援の実践で、ご入居者の暮らしを支えます。
- ◆ 職員一人ひとりの連携を強化し、強いチーム力を持つ施設サービス部となります。

『総括』

平成30年度は、前年度に続き、ケアカンファレンスへのご家族参加が定着し、意向を伺う機会を多く持つことができました。そして、より職員との信頼関係が深まることで、一緒にご入居者の支援内容を考えることができました。

個別機能訓練については多職種で実施することはもちろん、個別的なプログラムを通じた関わりがより充実し、ご入居者の笑顔も見られ楽しみや生活意欲の向上に繋がりました。

口腔ケアについては平成30年度より口腔衛生管理体制加算、口腔衛生管理加算の算定に伴い、歯科医師、歯科衛生士からの助言を受ける機会が多くなりました。口腔ケアについての助言や直接的な技術指導等を受けることで、職員の技術が向上し、誤嚥性肺炎の発症が減少するなど、ご入居者の口腔機能の維持、改善に繋がりました。

平成30年度からのグループ化（多床室）に伴い、職員一人が関わるご入居者の範囲が広がった事等から、個々を意識した関わりが薄くなったことや業務優先といった雰囲気が強くなってしまったことが課題となり、施設全体の意識改善のためのディスカッションやシステムの見直し等を行いました。今後も、「ご入居者が望むケア」を大切にして「ケア＝個別の支援」と「ワーク＝業務」のバランスを図りながらユートピア広沢としての個別支援の充実を図っていきます。

平成30年度は10名の方がユートピア広沢で最期を迎えられました。ご入居者が「安楽に過ごせるように」マッサージやリラクゼーションを中心とした支援をより充実し最後まで寄り添うケアを目指しました。また、ご家族にも気持ちの確認をしながら丁寧に関わらせていただきました。

これからも「ここで良かった」と思っていただけのようにご本人、ご家族の気持ちに寄り添い看取りケアの充実を目指します。

特養ユートピア広沢 Aグループ

『基本方針』

- ◆ ご入居者ご家族の気持ちに寄り添い、一人ひとりの意向に沿った生活がおくれるように支援します。
- ◆ 職員間の情報共有を密にとり、職員一人ひとりの専門性を高め、ご入居者の変化に迅速に対応します。
- ◆ 安心・楽しみ・安全が感じられ『笑顔で暮らせる環境』を作ります。

『総括』

グループ化に伴い、職員同士が協力して、これまでの取り組みを大切にしながら、ご入居者、ご家族への支援を行いました。しかし、関わるご入居者の数が増えた事で、情報共有が適切（意識を持って）に行えなかったこと、処遇に対しての手立てが迅速に行えなかったこと、ご入居者の個別支援よりも業務優先になってしまった事がありました。これらの課題を踏まえご入居者の望むケアを大切にし、担当職員がご入居者の意向を聞き24時間シートに反映させ、支援に繋げるようにしました。支援内容の共有については、申し送りだけではなく会議等で実施状況の確認を行い意識的に職員に声を掛けました。

年間行事については、施設内行事は予定通り実施できましたが、外出行事は職員の調整が十分にできず実施できませんでした。31年度はご入居者の意向を聞き、その方に合わせた内容を考えていきます。

特養ユートピア広沢 Cグループ

『基本方針』

- ◆ ご入居者の望む暮らしを職員間で共有し、統一した安心できる支援を行います。
- ◆ ご入居者一人ひとりの出来ること、楽しみにしていることを大切にして、継続できるように関わる事で、ご入居者の楽しみのある元気な暮らしを支えます。
- ◆ 共有スペースや居室の設えを工夫し、暮らしの場としてご入居者が落ち着いて過ごせる環境づくりを行います。

『総括』

平成30年度はグループ化への体制変更に伴い、職員間での連携を意識して取り組んできました。今までと同様に24時間シートを活用し、統一した支援に繋げることが出来ましたが、細かな状態変化についての情報の伝達や共有が課題となり、会議で申し送り方法について検討を行いました。今後も、情報の伝達方法について工夫を行い、細かな状態変化を共有し迅速な支援に繋げていきます。

増加傾向であった内出血などの創傷事故への対策として会議等で事故を減らすことができるように環境面の見直しやケアの見直しを行い、事故の発生を予防しました。

行事は事業計画に沿って行うことができ、ご入居者の楽しみに繋げることができました。

地域密着型特養ユートピア広沢 Dグループ

『基本方針』

- ◆ 丁寧な対応を積み重ね、ご入居者・ご家族との信頼関係を深めていきます。
- ◆ 職員一人ひとりが専門職として、ご入居者の元気な生活を支えます。
- ◆ 笑顔が増える楽しい暮らしの場をつくっていきます。

『総括』

平成30年度は、ご家族参加のカンファレンスにはほぼ全員のご家族に参加していただくことができました。ご家族と日頃から話し合えていることで、体調の変化にも慌てずに対応することができました。また、24時間シートやケアチェック表等、担当職員がアセスメントの原案を作成することができるように

なりました。しかし、まだ足りない情報も多く、内容にバラつきもあるため、今後はさらに職員一人ひとりがアセスメント力を身に付け、今まで以上に担当者として自信を持って発信できるよう努めていきます。

今年度から口腔衛生管理加算・口腔衛生管理体制加算も開始となり、日々の口腔ケアの取り組みも目的や課題を持って取り組むことができました。統一した口腔ケアができることで、ご入居者自身も口腔ケアが習慣になり、口腔内環境が改善する等の成果も出ています。個別機能訓練計画の実施と合わせて、ご入居者一人ひとりに元気な生活を維持していただけるように、今後も取り組みを進めていきます。

ご入居者に楽しく笑顔で生活していただくため、ご入居者の意向や季節感を大切にした行事を多く実施することができました。ご家族に参加していただく機会が少なかったため、今後は、ご家族にも気軽に参加していただける様な働きかけをしていきます。

ヒイラギユニット

『援助方針』

- ◆ 「丁寧な対応を積み重ね、ご入居者・ご家族と信頼関係を深めていきます。
- ◆ 職員一人ひとりが専門職として、ご入居者の元気な生活を支えます。
- ◆ 笑顔が増える楽しい暮らしの場をつくっていきます。

『総 括』

平成30年度は、カンファレンスや面会を通じて、ご家族のご意見やご要望を伺うことが出来ました。お伺いした内容は、申し送りや会議等で情報共有し、ご入居者の支援につなげていきました。今後は、担当職員がよりケアプランの内容を把握し、提案や取り組みが出来るようになることが課題と考えています。

行事では、食べるのが大好きな方が多く、料理が得意な職員もいるため、ご入居者の意見を伺いながら、季節感を取り入れた行事を行いました。また、口腔ケアの取り組みにより、職員の意識や技術も向上したため、今後も食事の楽しみや健康維持につなげていきます。

ご家族の面会が多くあり、ご要望や取り組んだことをタイムリーにご報告出来たこともあり、職員とご家族の関係も良好であったと感じます。次年度でも「楽しかった、嬉しかった」と笑顔のある関り、生活を送って頂ける支援を行っていきます。

サザンカユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者の想いを大切にし、日々の暮らしを支えます。
- ◆ 元気で過ごせるように、出来る事の維持に努めていきます。
- ◆ ご入居者の要望を取り入れた、行事を行っていきます。

『総括』

平成30年度も、それぞれのケアプランに沿って、日々の支援をおこなうことができました。前年度同様に生活リハビリや口腔体操を実施することも習慣になっており、毎日取り組むことができました。

今年度から開始になった口腔衛生委員会や歯科衛生士による口腔チェックにより、助言や指導を受けながら職員一人ひとりが口腔ケアに対しての知識や技術を高める事ができ、歯磨きが難しい方の支援も出来るようになりました。職員間で情報共有しながら継続したケアをおこなうことで、成果を出すことができましたと感じています。

行事では個別の外出をきっかけに、ご入居者の好みを知ることができたことやご要望を伺うこともできて、日々の支援に繋げる事ができました。今後もご入居者が笑顔で、元気に自分らしく生活が出来る様に支援していきます。

ケアハウスグループ（リバーサイド広沢）

『基本方針』

- ◆ 「一人ひとり」の意向が反映されたケアプランに基づく支援に努めます。
- ◆ 情報共有を密に図り職員間の繋がりを大切にして、ご入居者の変化に気付く、迅速に対応できるようにしていきます。
- ◆ ご入居者、ご家族からの声を聞き、皆が気持ちよく過ごせるように居室や共用スペースの環境整備を行います。
- ◆ ご入居者の好みや思いを受け止め、季節を身近に感じられる行事を行います。

『総括』

平成30年度は各職員がケアプランに基づき、ご入居者一人ひとりの意向に沿った支援に努めました。ご入居者からの意向に柔軟に対応することができましたが、情報共有の部分では不十分な点もあったと考えています。ご入居者の

意向や環境整備等については、今後もさらに情報共有を密に図っていきます。

年間行事については、個別の行事に重点を置き、一対一の繋がりを大切にしました。ご入居者一人ひとりの満足度もあげられたと感じています。来年度も個別の行事を行い、あわせて季節感を感じられるようなケアハウスならではの行事を考え、ご入居者が生活に楽しみをもてるようにしていきたいと思いません。

ユートピア広沢 医務グループ

『基本方針』

- ◆ 体調に合わせた適切な医療の提供で、ご利用者の安心した暮らしを支えます。
- ◆ ひとり一人に合わせた、専門的な関わり（機能訓練・口腔ケア・褥瘡対策等）でご利用者の生活の質を高めます。
- ◆ 最期の時まで、ご入居者・ご家族の『想い』に寄り添い、多職種協働で統一した支援を行います。

『総括』

他職種間・看護師間でご入居者の情報を共有し、連携を図ることで、体調に合わせた支援ができるように努めました。またご入居者の体調変化時に適切な処置等を行ったことで、感染症の発症の減少につながられたと考えています。

平成30年度の重点的な取り組みとしては、機能訓練、口腔ケアの継続、ポジショニング・除圧、皮膚トラブル対策等を行い、成果があがりました。今後もその重要性を強く認識し、取り組んでいきます。

平成30年度の退居者は12名、うち10名の方が施設での最期を望まれ、看取りケアを行いました。医師との連携を図り、その人らしく過ごせるようにカンファレンスを行い、最後まで、ご入居者・ご家族の気持ちに寄り添うことができたと思えます。

今後も職員間の連携を密にし、ご入居者の気持ちを大切にしながら、最後までその人らしく暮らすことができるよう支援していきます。

ユートピア広沢 栄養グループ

『基本方針』

- ◆ ご入居者・ご利用者、一人ひとりの嗜好や健康状態に合わせた食事作りに努めます。

- ◆ 旬の食材や伝統行事を大切にし、美味しさや食事の楽しさを感じていただける環境作りに努めます。
- ◆ 施設職員・厨房委託職員と協力し、献立作成や食事の提供方法、衛生面に注意を図りながら、『安全でおいしい食事・健康を維持できる食事』を提供します。

『総括』

食事は日常生活において楽しみでもあり身体を維持していく為に重要なものと考えられます。温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たく提供できるよう、ユニットのキッチンを活用しています。また、ご入居者・ご利用者の目の前で食事作りやおやつ作りを通じて、目で見て楽しめ、出来立てを味わっていただける機会が多くなりました。ユニット職員と協力し、ユニットで行う調理や厨房調理師によるユニットでの寿司や天ぷら等の出張調理は特に好評で、合わせて旬の食材や伝統行事の食事を提供する事で、食事の美味しさ、季節や食事の楽しさを感じていただきました。

また、健康を維持していくためにそれぞれの部署の多職種とカンファレンス等で話し合いを重ねながら、ご利用者、ご入居者の状態に合わせた食事の内容の検討を行いました。その人にとって食べやすく、美味しいと思っただけの食事はどんなものなのか、時にはご家族の声も取り入れ、柔軟な対応を行いました。

今後も、ご利用者・ご入居者の声や多職種職員との日々の情報交換を大切に、安全でおいしい食事・健康を維持できる食事の日々検討改善に努めます。

ユートピア広沢 ショートステイグループ (Bグループ)

『基本方針』

- ◆ ご利用者、ご家族の声を聴き、安心して「また来たい」と思っただけのケアを提供します。
- ◆ 一人ひとりのニーズに対応し、心身ともにリラックスできる環境を提供します。

『総括』

平成30年度は、ご利用者一人ひとりの「個別」への意識をより高めるため担当職員を中心に、ご家族への連絡や支援方法の相談、24時間シートの作成をすすめたことにより、職員一人ひとりが意向や好みを聞き取ること、関わることの重要性を確認することができ、職員の自立へとつながりました。

職員一人ひとりが、必要な時にご家族や介護支援専門員へ、積極的に情報（現在の状態・支援方法・気づき）を報告・伝達することによって、「安心して任せられる」「細かいことに気づいてくれて助かります」などの声を数多く頂き、定期的な利用の継続だけでなく、新規のご利用者の増加につながっています。

今後も24時間シートの作成と更新（ご利用者の変化への気づき）をタイムリーに行い、変化に対して柔軟に対応できることで、ご利用者一人ひとりの笑顔につながるよう、取り組んでいきたいと考えています。

課題として、ご利用者の重度化への対応があげられます。特に認知症状や、BPSDを理解した関わりが必要と感じ、毎月の会議だけでなく、定期的に勉強会や職員同士意見を交換する機会を設けていきます。

ユートピア広沢 デイサービスグループ

『基本方針』

- ◆ ご利用者、ご家族と誠実に向き合い、安全で安心して頂ける関係づくりを行っていきます。
- ◆ 身体の状態をしっかりと見極め、その方の生活に合った運動をより専門的で効果的に提供していきます。
- ◆ 心も体も温まる健康で癒しのある環境の提供を行います。

『総括』

今年度はご利用者、ご家族のニーズをしっかりと受け止め、それぞれの希望に添えるよう意識して対応してきました。ご利用中の過ごし方の点では、まだまだ一人ひとりの要望に沿えていない部分もありますが、引き続き満足していただけるような取り組みを継続していきます。

また、機能訓練では新しい運動や器具の使い方を分かりやすく表示したり、説明することで、利用される方も増え、身体機能の維持・向上を実感して頂ける方も増え、満足度の向上につながりました。

機能訓練の一環での買い物外出や、ビュッフェスタイルの昼食など新しい取り組みを行うことができ、ご利用者の皆様からも好評の声を頂きました。今後も季節を感じる行事や、新しい楽しみのある行事等をご利用者と一緒に考え、実施していきます。

ユートピア広沢 ホームヘルプサービスグループ

『基本方針』

- ◆ 住み慣れた地域で安心して暮らすための支援を充実します。
- ◆ 職員教育の充実を図り、専門性の向上を目指します。
- ◆ 関連機関との連携を図り信頼される事業所を目指します。

『総括』

訪問時、ご利用者の状態変化や様子について関連機関との連携を図り、住み慣れた地域で安心して生活できるような支援を概ね実施することが出来ました。

また専門性の向上では、年間研修計画に沿った研修の実施や、目標を掲げた同行訪問を実施しました。また職員間で意見交換を行うこと等も行い、技術向上を図る事が出来ました。変則勤務であるため、職員の時間調整が行えずグループ内でのスキルアップ研修や外部研修への参加が不十分でありました。職員が多くの研修に参加できるよう、外部研修実施などの情報収集に努め技術向上を目指したいと思えます。

毎年、ご利用者にお渡ししております干支飾りは、平成29年度より身近に愛用してもらいたいとの思いから手づくりの根付を作成しており、好評のため今後も継続していきたいと思えます。

ユートピア広沢 定期巡回・随時対応型訪問介護看護グループ

『基本方針』

- ◆ 住み慣れた地域で安心した在宅生活ができるよう支援していきます。
 - ・地域に根差したサービスとなれるように取り組んでいきます。
- ◆ 介護・看護・地域との連携を図り24時間体制で支援して行きます。
 - ・ご利用者の変化に気付き、迅速な支援などの検討・必要なサービスの変更を行い、職員間で情報共有を図り連携に努めます

『総括』

サービスを開始し2年が経ちました。サンフラワー広沢・グレイス広沢の入居者を中心にサービスを提供し「安心して生活ができる」等のご意見をいただき、ご利用者の人数も増加しました。住み慣れた地域で安心した在宅生活が送れるように24時間体制でご利用者の生活を支援しています。

サービスを提供するにあたりご利用者一人ひとりの生活を理解するため24時間シートを活用し職員間で情報を共有し、ご利用者の意向に沿った支援を柔軟に対応することが出来ました。また関係機関との連携を強化した事で、さらに安心した生活を送っていただいております。

訪問看護との連携では、急な状態の変化などを報告相談し、速やかに医療機関に繋ぐことにより、多くのご利用者の重度化を予防し、安定した在宅生活の継続を支えることができました。しかし地域の方々にはサービスの説明が不十分であるため、地域に根差したサービスにするため、広く周知していただけるよう地域との交流を深めていきます。

ユートピア広沢 居宅介護支援グループ

『基本方針』

- ◆ 様々なニーズに柔軟にこたえられるよう、法人内外の多職種との連携を図り、それぞれの専門性を活かした支援を行います。
- ◆ 地域の頼れる相談窓口となれるよう信頼関係の構築に努めます。
- ◆ 介護保険サービス、地域資源の情報収集を行い、支援活動の充実に努めます。

『総括』

ご利用者の様々なニーズに素早く対応するため、関係機関との連携の強化を常に意識して支援を行いました。法人内の連携に加え、法人外の多職種との連携では、今年度より開始となった、他法人合同勉強会や地域包括支援センター主催の勉強会、研修等へ参加することで、多くの情報を得ることが出来ました。あわせて、他事業所との交流も深まり、関わりが強まったと感じています。他の居宅事業所と意見交換をする機会は実際の支援に役立つことにも繋がっています。引き続き勉強会や研修会に参加する機会を活用していきたいと考えます。またご利用者からの相談に、素早く丁寧に対応することで、安心感を持っていただきました。

桐生市地域包括支援センター ユートピア広沢

『基本方針』

- ◆ 地域包括支援ネットワークづくりを推進します。
 - ・ 自らが地域に出向き、更なる周知を行います。
 - ・ 既存のネットワークを発展させ自治会や地域の社会資源との連携体制を構築します。

- ◆ 『地域包括ケアシステム』の構築に向け、地域ケア会議を開催します。
 - ・ 多職種協働による個別ケース会議を通年で開催します。
 - ・ 見守り等地域の方の協力が必要と思われるケースは早急に地域ケア会議を開催します。

『総括』

今年度は担当圏域内の町会等で行っているサロンやカフェに出向き、包括支援センターを周知する機会を増やすとともに、顔見知りとなれるよう地域住民との時間を共有しました。今後もより多くの町会等の方々に包括を認知していただけるよう、更なる周知を図っていきます。

広沢町では介護予防サポーターや脳トレリーダー等のボランティアと連携することで、包括主体で運営していた交流会を住民主体へとシフトすることができました。今後については運営を住民の方にお任せし、包括として後方支援を継続していきます。また、境野町での展開を考え13区内の社会資源とタイアップしたサロンの創設を検討したいと考えます。

地域ケア会議では、支援困難なケースや見守り等地域の方の協力が必要と思われるケースの会議を早期に開催しました。地域の参加者についても、民生委員だけでなく、その他の地域の方々にも参加していただき、本来目指すべき個別会議の形に近づいております。今後も地域からの参加を促進し、有効な地域ケア会議の開催を目指します。地域課題検討のための地域ケア会議も、毎月開催しましたが、今後はより有効で発展的な会議となるよう関係機関との連携・協働に努めます。

ケアハウス サンフラワー広沢

『運営方針』

- ◆ 法人理念である「他人（ひと）の痛みを我が身の痛みとして感じ、心の通う介護」に基づき、ご入居者の誰もがお互いの人格を尊重し、支え合い、生き生きと生活できるよう支援します。
- ◆ 住み慣れた場所でその人らしい自立した生活を営むため、ご入居者の意向に合わせ、介護保険等のサービスを適切に紹介し支援してまいります。
- ◆ 職員一人ひとりが資質の向上に努め、役割を意識し、法人内各事業所と連携しながら、心ひとつにご入居者を支援してまいります。

『基本方針』

- ◆ 法人内の施設と連携を深め、ご入居者の生きがいを見つけられるよう支援してまいります。
- ◆ 病院や他の事業所などと連携を図り、ご入居者の困りごとなどが迅速に対応できるよう支援してまいります。
- ◆ ご入居者やご家族からのご相談やご要望には、迅速かつ丁寧に対応できるよう努めてまいります。

1 実施の成果・総括

今年度は、他事業所との連携を密にとったり、感染症対策をしっかりと行ってきた事で、インフルエンザなどに感染する事もなく、落ち着いた一年でありました。その結果として入院者が少なく、また、入退居者の少ない年となりました。

行事では、グレイス広沢と共催する事で、施設間の交流も図れ、ご入居者の生きがいに繋げる事が出来ました。

要介護の状態であっても、定期巡回・随時対応型訪問介護看護や訪問看護等をご利用されているご入居者にとっては、より生活面、体調面の安心に繋げる事が出来ました。

また、家族懇親会を開催した事で、ご家族の方々と職員との親睦を深める事が出来ました。

今後も、ご入居者の誰もがお互いの人格を尊重し、支え合い、生き生きと生活できるよう、状態に応じてご入居者の意向のもと、介護保険等のサービスを適切に紹介し、法人内各事業所と連携しながら笑顔で生活が送れるよう支援してまいります。

養護老人ホーム サンロイヤル広沢（全体総括）

『運営方針』

- ◆ 法人理念である「他人の痛みを我が身の痛みとして感じ、心の通う介護」に基づき、ご入居者がいつまでも「元気で、楽しく、心豊かに」生活できる施設を目指し、ご入居者やご家族の意向を尊重しながら様々なニーズに柔軟に対応できるよう、職員が心をひとつにして、適切なサービス提供を行います。
- ◆ 外部サービス利用型特定施設として、ご入居者が安心安全で自立した生活を営むことができるよう、ご本人の意向を踏まえ、介護保険のサービスを適切に紹介・調整することで、より充実した生活が送れるよう支援します。また介護保険サービスをご利用なさらぬご入居者の生きがいくくりも併せて充実させていきます。
- ◆ 措置機関や医療機関、その他地域の関係機関等との連携を密に行うことにより、地域に根差した開かれた施設を目指します。
- ◆ 職員の専門性及び資質の向上を図るため、積極的に委員会活動や各種研修会等への参加、資格取得に努めます。また、職員間の協力・連携に必要なコミュニケーション力を高め、明るく働きやすい職場作りを目指します。

『総括』

平成30年度は、前年度よりは少なくなったものの、依然としてご入居者の入退居が例年に比べて多く、12名の入居と11名の退居がありました。

またショートステイについては、住宅の老朽化による住環境の悪化や、体調管理面や栄養面での不安、または天災からの一時避難、虐待からの保護や精神疾患により在宅での生活が困難となったケースなど、多様な事由による受け入れを行い、年間延べ931日の利用受入れとなりました。

今年度も前年度同様、生活保護受給ケースや医療ニーズが高いケース（特に精神疾患）、又はそれぞれが複合したケース等、入居理由は多岐にわたっており、個々のケースに対してのより細やかな支援を行うため、市役所をはじめとする各関係機関との連携・協議を密に行いながら、ご入居者が施設で安心して生活できるよう対応してまいりました。またご入居者の入れ替えによる、要介護の者の減少と要支援の方の増加傾向については継続しており、介護予防の必要性が引き続き高まっております。

身体機能低下の予防対策については、専門家による3B体操、予防体操、音楽療法やボランティアによるうたクラブを実施し、農耕クラブにおいては、施設の畑でジャガイモや大根等の栽培を行い、収穫期には地元の保育園児との交流を行うことで、野菜作りと収穫の楽しさを共有し、生きがいの高揚を図るこ

とができました。

これからもサンロイヤル広沢はご入居者の安心・安全を第一に考え、ご入居者がいつまでも「元気で、楽しく、心豊かに」生活していただける施設を目指し、職員が一丸となって努力してまいります。

養護サンロイヤル広沢 Aグループ

『基本方針』

- ◆ 私たちは、ご入居者一人ひとりの意向と生活ペースの把握に努め、その情報の共有を図り、報告・連絡・相談を大切にしながらご入居者がより安心した生活が送れるよう支援を行います。
- ◆ 私たちは、常にご入居者の状態を第一に考え、グループ間および関係部署との緊密な連携を図り、介護のプロとして向上心を持って日々の支援に臨みます。

『総括』

ご入居者のADLの変化が著しかったことに加え、入退院や、居室変更も多く、ご入居者への安心した生活環境の提供を行う上で、職員間の情報共有と報告・連絡・相談をより心がけた1年となりました。そのような中でも行事を多く取り入れることで、生活の中での笑顔を増やすことができたと思います。

ご入居者のADLの低下が進む中、デイサービスの利用や福祉用具を活用することにより、生活の質を保つことを心がけました。しかし中重度のご入居者に対しては、まだまだ支援の余地があると思われることから、今後介護のプロとしての視点や考えをより充実していくとともに、よりいっそうご入居者を取り巻く環境の充実を図り、運動や活動の推進、デイサービスや訪問看護サービスのさらなる活用を図っていきたいと考えます。

養護サンロイヤル広沢 Bグループ

『基本方針』

- ◆ 安全で安心した生活を送っていただくために、何にご入居者に必要かを一番に考え、ご入居者一人ひとりに合った生活が送れるよう支援を行うことで、入居して本当に良かったと感じていただけるよう努めます。
- ◆ ご入居者一人ひとりが主体となって、自立した生活が送れるよう環境整備を行います。

『総括』

ご入居者の皆様は、経済的な理由はもちろんの事、何らかの精神疾患がある方

や、持病のコントロールができずに悪化させてしまって入所となった方も多く、色々な不安を抱えながら施設生活をスタートされますが、入居後の規則正しい食事や薬の内服サポートによって、援助が必要な方は、援助を受けることで安全で安心した生活を送ることができ、いっぼう自立している方は、職員の見守りや声掛け、ちょっとした相談等でご本人らしく自立した生活を送っていたのではないかと思います。近年ご入居者の層は少しずつ変わってきていますが、ご入居者同士のトラブルもなく生活していただいております。

日々の接し方としては、ご入居者の意向や背景を理解したうえで、言葉遣いを意識しながら敬う気持ちをもって支援してきました。またご入居者一人ひとりの誕生日を大切に、行事を通して少しでも入居して良かったと感じてもらえるよう努力しました。今後も引き続き安全で安心した生活を送っていただけるよう支援してまいります。

養護サンロイヤル広沢 介護支援グループ

『基本方針』

- ◆ ご入居者が安心して自立した生活が営めるよう、ご入居者の意向や状態に沿ったケアプランの作成を行い、満足していただけるサービスを提供します。
- ◆ ご入居者が暮らしの中で、安心してご自身で出来ることを続けられるよう、サービスに関する様々な情報を発信します。

『総括』

各グループの申し送りや会議など、情報を共有できる場への参加を積極的に行う事で、グループ内での情報共有力を高め、ご入居者からの要望や必要な支援を迅速に提供することができました。今後も引き続いて、情報の共有と適切なサービス提供を迅速に行えるよう努めてまいります。

養護サンロイヤル広沢 医務グループ

『基本方針』

- ◆ ご入居者の気持ちに寄り添い、日頃の体調に関する相談等を通して信頼関係を築き、ご入居者が安心して暮らせるように努めます。
- ◆ ご入居者が健康に暮らせるよう、疾病の早期発見や知識の普及に努めます。
- ◆ 他職種、職員間の連携を密に情報共有しながら、嘱託医や他の医療機関に適切に受診できるように努めます。

- ◆ 訪問看護と連携し、ご入居者の機能低下の予防や防止に努めます。

『総括』

毎月の体調チェックや、春と秋の健康診断を通してご入居者と関わることで健康管理を行ってきました。ご入居者の情報把握が適切な判断の為になにより重要となることから、今後もよりご入居者の情報収集に努めていく必要性を感じています。また、冬季にインフルエンザ罹患者が出なかったのは、施設としての日頃の感染症予防への取り組みの成果であると思います。来年度も引き続きご入居者と職員の協力体制により、各種の感染症予防に努めてまいりたいと思います。

養護サンロイヤル広沢 栄養グループ

『基本方針』

- ◆ ご入居者の心身の自立への援助を「食」を通して行い「健康づくり・疾病予防」を目指します。
- ◆ 五感に訴え、食欲を増進させる楽しく家庭的な環境作りに努めます。
- ◆ ご入居者の嗜好を尊重し、「四季折々（旬）の料理・郷土料理」等趣向をこらした楽しくバリエーションに富んだ食事作りに努めます。
- ◆ ご入居者一人ひとりの健康状態や嚥下状態に合わせた食事作りに努めます。
- ◆ 給食の提供は委託業者と連携を図り、安心・安全な食材の確保と衛生管理に努めます。

『総括』

ご入居者の嗜好を尊重し、食欲を増進させ、健康づくり・疾病予防を目指す食事提供に努めてまいりました。

月1回の都道府県郷土料理・ご入居者や職員のリクエスト献立・お楽しみ献立やセレクトメニュー等、皆様からアイデアを頂き、様々なメニューを提供し喜んでいただくことが出来たと思います。

食材の値上がりもありましたが、給食の委託業者であるグリーンヘルスケアサービスと連携を図ることで、施設の畑で収穫した筍やじゃが芋、大根を飽きのこないよう様々なメニューで提供し、ロスを減らして食事の質を落とさないよう努めました。

体調不良で食欲が低下したり、嚥下機能の低下した方には、その方にあった食事提供を行いました。これからもその方の状態にあった美味しい食事を提供できるよう努めたいと思います。

ハーモニー広沢・ハートフル広沢（全体総括）

『運営方針』

- ◆ 法人全体スローガン『心ひとつに 前へ』
- ◆ 施設全体スローガン『自律し、成熟した専門集団を目指して』
- ◆ 施設サービス部『明日（あす）につながる一步』
- ◆ 在宅サービス部『前進するサービスの提供』

『総 括』

今年度は第7期の介護保険制度改正が施行された年でもあり、法人としても介護報酬の減算を想定し、前年度より各部署、各サービスにおいて、各種加算取得の在り方や制度改正に対応すべく様々な取り組みを行ってまいりました。その結果として、『心ひとつに前へ』の法人スローガンのもと、各サービス部とも自部署の計画やすべき事を丁寧に実践し、当初目指した結果（成果）がおおむね達成できたと思います。

施設サービス部においては、職員一人ひとりが専門職としてのスキルを發揮しながら、ご利用者の状態変化にいち早く気づき、その対応が素早く行えた結果、入退居および入退院における空床の減少や有効活用ができ、収入減少を抑えることに繋がりました。

在宅サービスにおいては、介護報酬が減額になる中、お客様のニーズや思いに添ったサービスの提供に努め、日々選ばれる事業所となるための方策を全員で考えながら進んできた結果が表れた一年だったと振り返ります。

これからも、施設サービスの使命である「看取りケア」の質の向上に向け努力しつつ、地域の皆様が住み慣れた場所で最後まで暮らす事が出来るよう、在宅サービスもより充実させ、地域包括ケアシステムの中核的存在を目指してまいります。

☆施設全体

<研修関係>

- ・ 県、県社協、全国及県老施協主催の研修参加者・・・延べ70名
- ・ 上記以外主催の研修参加者・・・20名
- ・ 施設間交流研修参加者・・・4名
- ・ 救急救命講習7月参加者・・・施設サービス部全員
- ・ 感染症・食中毒勉強会・・・全員

<行事関係>

- ・ 施設サービス部ご家族懇親会・・・4月特養及びケアハウス

- ・ふれあい祭り10月開催
- ・防災訓練9月、3月 総合防災訓練 11月

<その他>

- ・認知症カフェ・けやき開設 8月
- ・職員健康診断

☆施設サービス部

- ・歯科口腔検診・インフルエンザ予防接種・レントゲン検診
- ・季節外出行事・季節行事・季節食事行事・個別外出
- ・各ユニットご家族懇親会実施

☆在宅サービス部

- ・個別、集団機能訓練・運動会・ご利用者作品展
- ・季節外出行事・季節食事行事・趣味活動、クラブ活動
- ・地域交流行事(外出)・ケアマネジメントスキル勉強会
- ・病院各事業所、民生委員挨拶回り実施

特別養護老人ホーム ハーモニー広沢 (全体)

『基本方針』

- ◆ 明日につながる一歩
- ◆ ご入居者・ご家族の想いを"かたち"に
- ◆ 職員のつながりを"かたち"に

『総括』

平成30年度は介護保険の制度改正を受けて、ハーモニー広沢としても新たな取り組みを行った年度でもありました。まず口腔衛生管理体制加算、口腔衛生管理加算の新規算定については、歯科医師の助言のもと、歯科衛生士の指導を受け口腔衛生改善に努めました。さらに機能訓練指導員を中心に身体機能の維持を目的とした個別機能訓練計画についても再開しており、多職種の職員がそれぞれの専門性を生かす取り組みが年間を通して行えたと思います。その結果、退居者が前年の22名から、今年度9名と大幅に減少をしたことは一つの成果ではないかと考えます。

退居された方々のうち、施設での看取りをさせていただいた方は5名いらっしゃいました。今後も看取り指針に則った看取りケアの質の向上に力を注ぎ、ご入居者、ご家族の思いにしっかりと寄り添っていきたいと思います。

また今年度は、特に職員同士が連携して心をつなにし、お互いの繋がりを意識し、働きやすい職場を目指しました。結果、職員が一人も欠けることなく年

度末を迎えることが出来ました。今後も職員の定着率を高めるための取り組みを継続していきたいと思えます。

最後に課題として、ご家族より衛生面や接遇面でのご指摘やご要望をいただきました。今後ともご入居者・ご家族の小さな声を大きな課題としてしっかり受け止め、また、職員一人ひとりの声にも耳を傾けながら、「ハーモニー広沢で暮らせて良かった」と笑顔で話していただける場所を目指していきたいと思えます。

特養ハーモニー広沢 Bグループ

『基本方針』

- ◆ 柔軟性・専門性を意識し、ご入居者一人ひとりに合わせたサービスを計画的に行っていきます。
- ◆ 基本を大切にし、信頼されるグループを目指します。

『総括』

今年度Bグループではケアプランに基づいたサービスの提供、看取りケア、個別外出に力を入れてきました。定期的にカンファレンスを開催し、日々、ユニットリーダーが中心になり申し送り等でご入居者お一人おひとりの細かいケア一つひとつの根拠を明確に確認していくことが出来ました。看取りケアにおいてもケアプランの内容を基本として、ご家族の声に耳を傾けながら、柔軟かつ適切な対応ができたと感じています。また、個別外出は担当職員がご家族も巻き込みながら企画、実施し、よりご入居者、ご家族との関係性が深くなったと感じています。新人職員の育成では、チームで連携し、新人職員のペースで育成を行うことの大切さを確認することができました。来年度はユニット内の環境整備にも力を入れ、ご入居者・ご家族が気持ちよく過ごせる住まいになるよう、チームで連携を図っていききたいと思えます。

トランペットユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者・ご家族の意向、専門性を反映させたケアプランを作成し、サービス1つ1つを確実に実行していきます
- ◆ ご家族との時間を大切にし、最期まで笑顔で過ごせる支援を行います
- ◆ 常にご入居者の想いを感じられるよう、目線を合わせてお話しします
- ◆ 気持ちよい「ありがとう」が飛び交うユニットづくりを行います

『総括』

今年度の援助方針に則り、ご入居者、ご家族と過ごす時間を大切にして頂く為に、外出やユニットでの行事の際には積極的に誘いするよう心がけました。個別外出では、ユニット初の試みとして、東武線の電車を利用した浅草への外出支援は、ご本人、ご家族の日頃のご要望にしっかりと応えることが出来、同行の職員については、多くの貴重な体験が出来たと感じます。また、外出外出が難しいと思われるご入居者に関しても、ご家族の協力のもと安全に出掛ける事ができたことは、ユニット職員皆の自信と力になりました。恒例の合同夏祭りは多くのご家族の参加もあり、焼き立てのたこ焼きはとても好評で皆様楽しんでいただけた様子でした。今年度の様々なユニット行事の目的は、援助方針にあるご家族を巻き込んでの行事でしたが、職員全員の努力によりその目的は達成できたと思います。来年度は、日常生活の中でもご家族と共に笑顔あふれる時間を過ごしていただくための提案や意見をもっと増やしていきたいと思えます。

バイオリンユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者がいつでも清潔を保ち、快適に過ごせるユニットをつくりまします。
- ◆ ケアプランをもとに、ご入居者のできることを継続していく取り組みを行います。
- ◆ お互いに感謝の気持ちを伝え、職員間の連携を強固なものにしていきます。
- ◆ 簡潔に情報伝達を行い、サービス1つ1つを着実にいきます。

『総括』

ユニットリーダーとして新しく就任し、ユニットの職員とのコミュニケーションをまず密にとることに努力した一年でした。当初は職員との意見の違いが多く、対応がうまく纏まらない事もありました。日々職員同士のコミュニケーションをより密接に行い、情報交換、発信を行っていく中で、看取りケアの貴重な経験をさせていただき、自部署の職員一人ひとりがご入居者の為に何が出来るかを考え、ご家族のご意向や想いに添った対応とは何なのかを悩みながらも全員で実践できた経験は大きな収穫となりました。ケアプランの実践については、ご入居者の自立支援に添った援助内容を職員一人ひとりが行い、状態が改善された方も数名いらっしゃいました。行事関係ではご入居者のご意向をしっかりと聞き取り、お墓参りや、銭湯、買い物、食事外出などが出来ました。

今後もご入居者やご家族のご要望を日常の会話から導き出し、一つでも多くのことが実現できるよう努力していきたいと思います。

特養ハーモニー広沢 Cグループ

『基本方針』

- ◆ ケアプランを軸に、「心が寄り添う」ケアを提供します。
- ◆ 支援のあり方をみつめることで、職員の育成に努め、働きやすい環境を整えます。

『総括』

今年度はタンバリンのリーダーが新しく就任し、「馴染み」の関係を大切にしつつも、新たな視点でグループの問題を、全体で考えていく視点が身についた一年でした。結果としてスタッフ同士、相手の立場になって自ら考え、協力できる職員像を目指すきっかけになりました。

大きな成果として、日常のケアが安定して提供できた事で、時間的な手間の問題のあった胃ろうの方の経口摂取再開に向けてのチャレンジができました。また、医務との協力体制の調整や、ケアプランの実践に至るまで、「本人の想いを汲みとり、今以上にどんな工夫をしたら個別の支援が実現できるのか」をチーム全体で共有し体験することができました。

また今年度の事故に関しては、内服事故は前年度に比べて減らすことができましたが、骨折・創傷が複数件あり、改めてご利用者の状態が高齢となり、お身体の各部位の脆さについて、認識を深めていく必要性を感じました。

来年度も、事故の検証、原因の究明を徹底し、同様の事故を二度とくりかえすことの無いよう、予防していきたいと考えます。

平成30年度は、日常のケアや取り組みにおける悩みや課題をユニットの職員全員でオープンにし、改善、解決に向け話し合いを続けてきました。来年度も、この取り組みを継続し、ご利用者お一人おひとりに寄り添うケアを目指していきたいと思います。

ハンドベルユニット

『援助方針』

- ◆ 担当職員は、ご入居者・ご家族の要望を穏やかな態度で誠実に受け止め「その人らしく生きる」を専門職として応援します。

- ◆ 日々、変化するご入居者の状態に合わせ、チームで話し合い、年2回以上24時間シートを更新し、着実に活用していきます。
- ◆ ご入居者様の交流する機会、楽しみを増やすため、グループ主催または、施設合同開催の行事に参加する機会を年5回以上設けていきます。

『総括』

平成30年度は、職員の異動が少なく、ご入居者やご家族にとっても、大きな戸惑いや不安もなくスタートすることができました。

行事についても、要望の伝えられる方の意向を確認するのはもちろんですが、ご自分で発信することが難しいご入居者も参加できるような内容を考え、取り組むことができました。

またご入居者の状態変化に合わせ随時話し合いを持ち、対応することで、皆様穏やかに過ごすことができた1年になったと思います。しかし、接遇的な面での職員の不適切な言動があり、ユニット内での課題として会議等で話し合いを重ねました。結果として、職員の時間的な余裕や気持ちのゆとりの無さが第一の原因となり、対応としてまず自身の言動を振り返り、焦りや強い言葉が見られたときは、他の職員が、早い段階で気づき、声掛けなどを行う対策をとるよう見直すこともできました。

来年度もご入居者の状態に合わせた業務の見直しを行い、少しでも職員が気持ちにゆとりをもってご入居者と関わるできるように改善していきたいと思えます。

タンバリンユニット

『援助方針』

- ◆ 「私らしく生活したい」その想いを汲み、笑顔で穏やかに関わっていきます。
- ◆ ご本人、ご家族の想いを職員間で共有し、その方にあった楽しい企画を年1回以上実施します。
- ◆ 毎月のユニット会議で支援のあり方について話し合い適切なケアサービスをチームとして提供し、年2回以上振り返りの機会を設けます。
- ◆ 個々の職員が自己の目標を明確にし、専門職として自律すべく、振り返る機会を年2回設けていきます。

『総括』

今年度を振り返り、自ユニットのご利用者対応に悩みつつ、皆で考える機会が多い一年でした。特に認知症の周辺症状や、せん妄が強く見られる方に対して、心理状態を探る事、抗認知症薬や抗精神薬の作用、副作用について学ぶ事が出来ました。様々な状態のご利用者に対して、医療面も絡めながらケアについて考えさせられることが多く、介護職として非常に中身の濃い1年であったと思います。

年度の前半は泌尿器系や消化器系のトラブルで体調を崩される方が多くみられましたが、その都度対応を講じることができ、職員も迷うことなくケアに従事できていたように思います。年度の後半はご入居者の体調面は比較的安定し、それに伴いユニットの雰囲気も落ち着き、明るくなったように感じました。

年度方針の年間行事以外にも外に出る機会を多くつくる為、勤務調整を行いながら、ご入居者やご家族の思い、意向に添った個別行事も行う事が出来たと思います。

特養ハーモニー広沢 Dグループ

『基本方針』

- ◆ 根拠に基づいたケアを行い、ご入居者の元気につなげます。
- ◆ 『思いやり』を大切にしたいグループを目指します。

『総括』

今年度の基本方針である、ご入居者お一人おひとりに対して、根拠のあるケアを実践し、皆様の元気につなげる事は、おおよそ両ユニットとも達成できたと感じます。ご入居者のニーズの把握をしっかりと行い、その内容を全員で共有しながら支援できたと思います。又、ユニットリーダーが中心となり、迷い等があった場合は、話し合いやミニカンファレンス等を随時行い、解決や対応に繋げることが出来たと思います。

しかし『思いやり』を大切にしたい方針に関しては、まだ課題が残りました。ご入居者に対しては、日々の気付きや優しく接することが出来ていたように思いますが、職員間での助け合い、支えあいが少し欠けていたように感じます。来年度はまずリーダー同士が話し合う機会を多く持ちつつ、Dグループ全体として、『笑顔』『思いやり』『しあわせ』をテーマに、ご入居者、職員の想いを形にしていく努力をしていきたいと思っております。

ピアノユニット

『援助方針』

- ◆ ご入居者の日々の心身の変化に合わせ、ミニカンファレンスを随時行い、今何が一番必要かを見極めていきます。
- ◆ 最期まで「その人らしく」生活できるよう、面会時などに、関わりのある方からの情報収集に努め、毎月のユニット会議で共有しケアに活かします。
- ◆ 自分以外の他者に、日々労りの気持ちを持って接し、良好な関係を築いていきます。
- ◆ ユニット間の連携を強化する為、グループ会議を3ヶ月に1回開催し、意思の疎通を図ります。

『総括』

今年度は、職員の入替わりがあり、1年を通して、ユニット内の雰囲気は明るくなった様に思います。しかし職員間のコミュニケーションも良好ではなかったものの、ミニカンファレンス等の場面での意見が活発に発言できたかは疑問であり、課題を残す部分となりました。結果としてサービスの質の低下を防ぐ為にも、やるべきことはきちんと行い、不足している部分は互いに補い、注意しあえる様な関係性の構築が、来年度に向けての課題であると考えます。

ユニット内の接遇では、お一人の方の看取りをさせていただきました。またこの1年で著しく状態の変化が見られた方が2名いらっしゃり、皆が同じ方向を向き、支援にあたれるよう、話し合いの機会を多く設けて対応できたと思います。

最後に、年間行事について、初めての試みとして、Dグループ合同の行事を行えたことはとても良かった様に思います。施設内で過ごされていると、四季の移り変わりや、日本の昔からの行事などに触れる機会も限られてしまっています。今後も、楽しみの機会や、気分転換の機会を増やし、ご入居者の笑顔に繋がる様な起案を両ユニットで話し合いながら行っていけたらと思います。

トライアングルユニット

『援助方針』

- ◆ 心と体のケアをすることで、活気あふれる関わりを増やしていきます。
- ◆ ご入居者の日々の様子での『気づき』や『変化』を見極め、ミニカンファレンスを多く取り入れ、ご入居者の笑顔に繋がります。

- ◆個々の職員の意見を反映し、温かな住環境作りを行います。
- ◆ユニット間の連携を強化する為、グループ会議を3ヶ月に1回開催し意思の疎通を図ります。

『総括』

平成30年度は、リーダーとユニット職員の異動があり、雰囲気が大きく変わった1年だったと思います。日々どんなことでも話し合える関係作りを目指し、ご入居者様への「気づき」や「変化」について年間を通して話し合いを行ってきました。しかし、話し合いの場は多く作れたものの、その内容的にはまだまだ未熟な状況があり来年度の課題となりました。

また今年度はお一人の方の看取りをさせていただきましたが、皆様、年間を通して大きな状態変化が少なかった様に思います。そのような中、ご入居者に対してどうしても毎日元気で過ごされていることが当たり前の姿として接しておりますが、皆さまご高齢でもあり、何らかの病気や疾患をお持ちの方々ということを再認識し、いつ大きな状態変化が起きてもおかしくないことを職員全員で改めて気づくことができました。

自ユニットは心身ともにお元気なご入居者が多いユニットでもあり、個別外出や行事を多く実施してまいりました。来年度も担当職員だけでなく全職員で話し合いを行い、ご家族と共に笑顔のある楽しい行事を実施しながら、皆様の健康寿命を伸ばしていきたいと思っております。

ケアハウスグループ（ハートフル広沢）

『援助方針』

- ◆ ご入居者の個性を尊重し、大切にしていきます。
- ◆ お互いを尊重しあえる関係づくりをしていきます。

『総括』

今年度は「ケアプランに基づいた支援」を行う為に、サービス担当者会議をご家族も交えて実施する事が出来ました。その結果、ご家族もケアプランについてより意識して頂ける事に繋がったと思います。出席して頂けないご家族についても、引き続き、その都度連絡をし続けていきたいと思っております。

今年度の課題であった24時間シートやケアチェック表の更新については、まず各担当職員が作成した資料を基に、担当ケアマネがそれぞれの担当者と最終確認の上、ご入居者の現状が正確に把握できているかをチェックしながら、作成し、ご入居者にとって今何が必要かといった情報を共有し、次年度に繋げ

ていきたいと思いをします。

また次年度に向け、職員間の人間関係については、馴れ合いにならず、日々緊張感をもって、介護のプロとしての意識を保てるよう、定期的に自己の行動について振り返る機会を設けていきたいと思いをします。

ハーモニー広沢 医務グループ

『基本方針』

- ◆ より良いケアの実現のために、人をつなぐ架け橋としての役割を担っていきます。

『総括』

今年度もご家族様のご意向、ご要望に添い、特養においては5名の皆様の看取りをさせていただきました。また、最後の時間を病院でとご希望されるご家族も数名いらっしゃいました。今後もご家族間でのご意見の違いや、迷われてしまわれた時、医務グループとして様々なお気持ちやご意向に添う為の相談スキルを高め、ハーモニーとしての看取りケアの質の向上に向け、全員で努力していきたいと感じております。

胸部レントゲン検診では看護師はもとより、お手伝いの職員へ当日の流れや役割分担を事前に説明し、スムーズに撮影を行うことが出来ました。また再検査の指示の対応や、結果が思わしくない方に関しても主治医より病状説明をしっかりと行って頂くことが出来ました。この流れは今後も継続して行きたいと思いをします。

救命救急講習会に関しては、今回救命士の方の協力のもと、実際に事故が発生した状況を想定した実践形式で行いました。受講した職員からのアンケート調査では、耳で聞くだけでなく、実際行動しながら学べる事が出来たという意見が多く、今後もこのような講習を繰り返し行うことで職員全員が協力し、不安や迷うことなく迅速な対応が出来るようにしていきたいと考えています。

来年度はさらに看護師と多職種との報告・連絡・相談を密に行い、つながりを大切にし、常に感謝と思いやりの気持ちを持ちご入居者やご家族が安心して笑顔でいられるように支援をしていきたいと思いをします。

ハーモニー広沢 栄養グループ

『基本方針』

- ◆ 五感に訴える食事作りを通じて、食べたい気持ちを引き出します。
- ◆ できるだけ最後まで口から食べていただけるよう努力します。

『総括』

今年度も食材費に関しては、通常の値上げの他、台風等の災害も影響し、厳しい状況の一年でしたが、安価な時や物を見定め、旬の果物や野菜等を提供してきました。皆様好評のお刺身も、握り寿司や海鮮丼、まぐろ漬け丼などのメニューで喜んでいただけたかと思えます。また食中毒予防の観点から、6月から9月までは刺身提供が出来ないため、その期間のお楽しみとして、うな井やうなぎ散らし寿司を提供してきました。しかし、うなぎもかなりの値上がりのため、今後も色々な食材を工夫し、値上げ対策を講じながら、献立作成をしていきたいと思えます。

厨房内の委託業者の職員体制においては、一年を通じて、退職者、体調不良者、ご家族の事情などのため、不安定な状況が続き、厳しい体制となりました。そのような中、調理の基本である味の統一化、きれいな盛り付け、美味しいとされる献立の組み合わせなどには課題も見えてきており、来年度に向けて、栄養士、調理師、パートさんと一緒にユニットに出向き、ご入居者の食事風景を実際見ながら、美味しく、召し上がり易い、そして、安全な食事の提供に繋げていきたいと思えます。また、ユニットでの実演（握り寿司、天ぷら、かつ丼等）は、ご入居者、ご利用者のおいしそうなお顔が見られ、栄養科としても嬉しくなるひと時です。皆様の笑顔をもっと増やしていきたいと思えます。

特養、ケアハウス、ショートステイ、デイサービスと食の好みは様々ですが、皆様の嗜好をしっかりと把握し、召し上がりやすく、昔懐かしいものから、目新しい献立のものまで様々な組み合わせを行っていききたいと思えます。

今後も体調不良や飲み込み等が困難になってきた方に対しては、職員と情報交換を密にし、ご家族の意見もお聞きしながら、最後までお口から召し上がっていただくための食形態として、のど越しの良いペースト食、ソフト食、栄養補助食品などを工夫して提供していきたいと思えます。

ハーモニー広沢 ショートステイグループ

『基本方針』

- ◆ ご利用者、ご家族がサービスに満足出来るよう、一人ひとりのニーズに合わせた根拠のあるケアを目指します。
- ◆ ご本人にとって使いやすく過ごしやすい、安全に配慮した空間作りを提供します。
- ◆ メリハリのある生活が送れ、日常に彩りを添えられるようなショートステイを目指します。

『総括』

昨年に引き続き「寄り添う姿勢、根拠のあるケアを」というスローガンを元に行事や元気運動、生活全般の介助など全てにおいて根拠を意識し、一年間取り組んでまいりました。ほぼ事業計画通りの行事の実施や元気運動の実施が今年度も継続できたと思います。また、生活全般の支援についても、一人一人の個性に合わせた対応が出来ていたと思います。日々ご利用人数や職員が変化する中、イレギュラーな対応が求められる場面も多く、その都度ご利用者が気持ちよく過ごせる環境や居場所づくりを考えてまいりました。

また稼働率については、年間平均目標を「93%」に設定しておりましたが、昨年同様、年間平均「90%」となりました。新規ご利用者も27名と昨年度に比5名減少しております。原因として、ミドルご利用者の体調不良による空床の増加、定期利用者の利用終了などが考えられます。また、新規ご利用者の人数を中々増やす事が出来なかったため、直接稼働率に影響が出てしまいました。今後は、新規ご利用者の問い合わせに対して「より具体的な日程の提案」を提示したり、早めのお問い合わせに対して、予約票の作成を3カ月前から作成し、迅速な返答が出来るように体制を整えていきたいと思っております。

来年度は「凡事徹底」というスローガンを掲げ、当たり前前、ご利用者の望む事がどの職員に声をかけても同じように出来ることを徹底し、職員自身も環境の一つであることを再度自覚し、ご利用者、ご家族の皆様安心してサービスがご利用頂けるよう支援していききたいと思います。

ハーモニー広沢 デイサービスグループ

『基本方針』

- ◆ 常にご利用者、ご家族が満足して頂けるサービス提供をします。
- ◆ チームとしての「和」を大切にしていきます。

『総括』

平成30年度も「ご利用者の満足の為に」をスローガンに私たちが最大限できることは何かということを考えながら運営することができたと思っております。また、ハーモニーデイの特色でもある、機能訓練、クラブ活動の内容が他事業所のケアマネにも知って頂けるようになったことで、お問い合わせも多く、見学や体験利用へ繋がるケースも増えました。その結果として、日々安定した人数を確保することができ、年間の稼働率も当初目標としていた数字を残すことができました。しかし、満足のいくサービスを追求すればするほど、忙しさが先行してしまい、

今まで出来ていた事が疎かになり発生した事故もありました。

また、チームとしての「和」については、年間を通しおおむね実践できた一年であったと振り返ることができます。しかし、所々で一部の職員による不適切な言葉遣いや、偏った見方や意見による「和」を乱しかねない言動もありました。一人ひとりの人材育成に関しての人間力の向上の徹底はまだだと実感しています。

来年度は「求められるサービス展開を」をスローガンに、ご利用者、ご家族、ケアマネ、他事業所など、様々なところから求められるサービスをしっかりと展開できるようにし、より一層職員の礼節(マナーアップ)を徹底していきたいと思えます。

ハーモニー広沢 ホームヘルプサービスグループ

『基本方針』

- ◆ ご利用者・ご家族の声を聴き、担当者会議等を通して、ご利用者の意向や状態に応じた訪問介護計画書の作成及びサービス提供を行います。
- ◆ ご利用者が安心して生きがいをもって暮らせるように、ご利用者の意向や状態に基づいた各種サービスを行います。
- ◆ ご利用者が暮らしの中で、安心してご自身で出来ることを続けられるように、各種サービス機関との情報共有等を密にし、継続した支援ができるように努めます。

『総括』

要支援・要介護状態になられたご利用者が、ホームヘルプサービスを利用される事で安心して生活を継続する事ができたとともに、自立支援の観点に基づいた援助を行っていくことによって、体力の維持や、ご本人のやりがいの向上、張りのある生活につなげることができたのではないかと考えます。

今後も同様の視点を持ってご利用者の生活の質の維持に貢献していきたいと思えます。

ハーモニー広沢 居宅介護支援グループ

『基本方針』

- ◆ ご利用者に寄り添い、住み慣れた地域でその方らしい生活が最後まで続けられるよう私たちだからできるお手伝いをさせていただきます。

『総括』

*今年度は中重度者の占める割合が45～50%とかなり高くなりました。それに伴いご利用者の状態変化も激しく、ひと月数名の方が終了となる月も多く居宅の迅速な対応がとても重要である事を再確認した年度であったと思います。いつでもご利用者のニーズに沿った円滑な対応ができるように今後も情報を密に共有し居宅一丸となり支援していきたいと思えます。

サービス付き高齢者向け住宅 グレイス広沢

『住み慣れた我が家の様な安らぎと気楽さ』

『運営方針』

- ◆ 職員一人ひとりが様々なニーズを持った皆様の思いを共有し、この住まいが安らげる我が家となるよう、支援や環境作りに取り組んでいきます。
- ◆ 気兼ねせず自分らしく過ごすことが出来るよう法人内各事業所と連携し心ひとつにご入居者を支援してまいります。

生活支援グループ（サービス付き高齢者向け住宅）

『基本方針』

- ◆ 「安らげる我が家」を目指します。
- ◆ 「自分らしく過ごせる気楽さ」を保証いたします。

『総括』

開設から3年目となり、ご入居者同士のご近所づきあいもみられるようになってきています。コミュニケーションの場としてのグレイスサロンも定着し、今年度はサンフラワーと共催することで、施設間の交流も図れるようになりました。催し物の回数も増え楽しみの場を増やすことが出来ました。やはりお食事に関することは大変好評でした。

運営懇談会では「感染症予防のための手洗い」と「認知症予防について」の講演を実施し、楽しみながら実践でき「日々の生活に役立てられる」とのご意見もいただきました。ご入居者が健康で過ごしていただけるように情報提供をしていきたいと思っております。

ご入居者から、改善のご要望やご意見もいただき、都度改善点を提案し、ご理解をいただけるよう努力してきました。今後も関係スタッフと相談をしながら、良い方向性を見出していきたくと考えています。

感染症強化月間に伴い、感染症予防に関する情報提供や予防の手立てのお願いを窓口で強化し、面会の皆様へは防犯対策の意味も込めて面会届の声がけと周知を行うことが出来ました。

介護保険サービスとの連携により、体調の変化については情報共有が迅速に出来たことで、早期の段階でご家族や医療につなげることが出来ました。今後も過不足なく情報共有ができるよう、より良い伝達方法を工夫していきたくと思

います。そして何よりご入居者が、心身ともに健康で笑顔で暮らしていけるようにサポートしていきたいと思えます。

グレイス広沢 訪問看護グループ

『基本方針』

- ◆ ご利用者が住み慣れた自宅で、可能な限り自分らしい生活が送れるよう、心身機能の維持回復、生活機能の維持を目指し支援します。
また、ご利用者やご家族との信頼関係に努めます。
- ◆ 関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの連携を図り、必要なサービスの提供に努めます。
- ◆ 職員の資質向上を目的とし、個別の研修計画に沿い、外部の専門的な研修へ積極的に参加し、会議などで報告・研修会を実施します。

『総括』

今年度は年度始めより、外部訪問でのがん末期のご利用者の受け入れがありました。ご本人と奥様は最期まで在宅で過ごしたいという希望があり、初めての在宅での看取りも視野に入れ訪問に入っていましたが、途中入院され在宅での看取りにはなりませんでした。今後また在宅での看取りを希望されるご利用者がいたら、ご本人やご家族のご意向をくみ取り、ご本人やご家族に寄り添った終末期の看護が出来たらと思えます。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護を導入してから1年が経ち、ご利用者の人数も増えて来ています。定期・随時ヘルパーとの情報共有や連携を図る事により、体調不良者の受診や救急搬送、インフルエンザや風邪の流行時期の感染対策等、迅速に対応する事が出来ました。また今年度は訪問看護の管理者会議に出席し学びを深めることが出来ました。主治医と報告書のやり取りだけでなく、「報告・連絡・相談」も訪問看護の管理者として過不足なく行う事が出来ました。

今年度は外部研修にも多く参加させて頂き会議での伝達も出来ました。来年度は個人の研修計画に沿い、更なる専門性の向上を目指したいと思えます。

今年1月に県指導検査を受け、再確認を行うことが出来ました。反省点を踏まえ、ご利用者の状態変化に迅速に対応できるよう、日々の確認をしっかりと行い、今後につなげていきたいと思えます。

来年度は伴走型自立支援を目指しアセスメント力を高め、ご利用者やご家族が笑顔で安心した療養生活を送れるよう、支援していきたいと思えます。